

## 教育目標

心豊かに たくましく よく遊び 未来へつながる子どもの育成

## 年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月24日	学校運営協議会サンサンキッズ
最終評価	3月9日	学校運営協議会サンサンキッズ

## （１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

## 具体的な取組

- ・「安心・安定」した園生活を基盤とし一人一人が夢中になって遊び込む中で、自己発揮や協同性を育むための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考え、幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。
- ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方とのかかわりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。
- ・幼稚園兄弟を意図的につくり、年間を通して異年齢児がかかわる機会を設定し、憧れや思いやりの気持ちが育つようにする。
- ・未就園児とのつながりが持てる機会を設定する。
- ・若年教員の保育の質向上を願い、ＩＣＴ機器を活かしつつ、幼児教育で大切にしてきたことを今一度振り返る。絵本やリズム遊び、運動的な遊び、造形活動など体験を通して行う保育の見直しを通し、幼児の言葉に関する感覚が育つように環境や教師の言葉がけなど意識していく。

## （取組結果を検証する）各種指標

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
- ・アンケート項目

① 「幼稚園を楽しんでいる」

- ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
- ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」
- ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
- ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
- ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
- ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」
- ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

#### 中間評価

#### 各種指標結果

- |                                    |                        |
|------------------------------------|------------------------|
| ① 「幼稚園を楽しいと感じている」                  |                        |
| ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」            | とてもそう思う 82%・概ねそう思う 18% |
| ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」      | とてもそう思う 78%・概ねそう思う 22% |
| ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」               | とてもそう思う 73%・概ねそう思う 25% |
| ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」    | とてもそう思う 87%・概ねそう思う 13% |
| ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」 | とてもそう思う 65%・概ねそう思う 33% |
| ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」  | とてもそう思う 51%・概ねそう思う 36% |
| ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」     | とてもそう思う 96%・概ねそう思う 4%  |
|                                    | とてもそう思う 51%・概ねそう思う 47% |

#### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

- ・園内研究における実践事例の検討や研究保育を通しての保育の見直し、環境構成等、教職員の意識は高まっている。また、育支援センターから専門の先生方にお越しいただき、子どもの育ちや課題を共有し、本園の子どもたちの課題に全教職員で向き合っている。そのことが教職員の意識を高め、保育の充実につながっている。言葉や表情、しぐさなどから子どもの気持ちを読み取ろうとする幼児理解が深まっている。
- ・自然物との関わりでは、年長児が種からの栽培物を増やし、花の苗屋さんを開き、地域や保護者に関わってもらう取組をした。収穫や開花に触れ、自然物への興味関心が育ったと考えている。
- ・⑥については、毎年評価が低い項目である。個人差はあるが、基本的な生活習慣が子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮できる素地をつくることを、保護者へ意識づけし、今後も家庭と連携していきたい。今年度は食事に関する習慣が課題と考えている。
- ・⑧に関しては、どのような方法を取れば理解していただけるのかを考え、家庭との連携を大切に取しながら、より保育内容を表面化し、信頼される幼稚園づくりをめざして取り組んでいきたい。

##### 分析を踏まえた取組の改善

- ・子どもが心を動かし、試したり挑戦したりするためには、保育環境の工夫、教職員の共通理解の他に、家庭の影響も大きい。今年は言葉に着目した保育をめざしているので、教職員の言葉がけや援助が子どもにとってプラスとなっているのかを見直し、互いの保育を見直していきたい。
- ・基本的な生活習慣の自立や人とかかわりが心の安定や意欲、自信につながることを踏まえ、家庭との連携を今後も深めていきたいと考える。指導案・週案の反省・評価を基に、今後も子どもたちの遊びや生活が充実できるように保障していきたいと考えている。

##### （最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
  - ・アンケート項目
- ① 「幼稚園を楽しいと感じている」
  - ② 「友達や先生とかかわることを楽しんでいる」
  - ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」
  - ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」
  - ⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」
  - ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」
  - ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かいかわりをしている」
  - ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>感染症の影響で保護者同士が関わり合う機会が減ってきているので、幼稚園が大切にしている教育方針や保育の良さなどが日常の何気ない会話の中で伝わりにくくなっているのかもしれないと感じた。関われる機会が増えると変わってくるのではないかな。</p>
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<div>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

## (2) 幼小連携・接続に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する小学校との交流活動の継続、連携・就学前、就学後の連絡会・保育、授業参観・幼小中合同研修・作品展見学などを通して互いの教育への理解を深める。</li> <li>・「就学支援シート」の活用、「個別の指導計画」の作成・引き継ぎ</li> <li>・“夢中になって遊び込む”経験を積み重ね、言葉で思いや考えを伝えようとする力を育む教師の援助や環境構成を考える。「学びに向かう力」を育てる保育を推進し、小学校へとつなげる。</li> <li>・『架け橋プログラム』を意識し、カリキュラムの見直しを行う。</li> <li>・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、創造する楽しさを味わうなど、言葉や文字、数量に対する感覚の基礎を培う。</li> </ul>
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し</li> <li>・接続期を意識した5歳児教育課程の検討</li> <li>・小学校との交流や施設利用状況、交流保育の事前事後研修の実施</li> <li>・「親子で絵本！」の活用状況</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「幼稚園が小学校・中学校とのつながりを大切にしている」</p> <p>② 「子どもは絵本を読むことが好きである」→「親子で絵本を読む時間を大切にしている」</p>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し</li> <li>・接続期を意識した5歳児教育課程の検討</li> <li>・小学校との交流や施設利用状況 → ウェルカムデー (参観) の実施、校庭の借用、運動会参観</li> <li>・交流保育の事前事後研修の実施 → 幼稚園のうさぎを通しての交流</li> <li>・「親子で絵本！」の活用状況 → 目指せ100冊の達成状況 (個人差がある)</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「幼稚園が小学校・中学校とのつながりを大切にしている」</p> <p>② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」</p>	<p>とてもそう思う 67%・概ねそう思う 33%</p> <p>とてもそう思う 38%・概ねそう思う 47%</p>
---	---

自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間で見通しをもって連携の取組をしていきたいと、小学校との打ち合わせを行い、前向きな意見をいただけたが、感染状況の心配もあり、交流はウサギを通しての交流に留まった。しかし、幼稚園のウェルカムデー（参観）、子どもの苗屋さんなど、小学校の教職員、中学生、地域の方が足を運んでいただく機会は持てた。児童との実際の交流は難しいが、小学生の運動会の参観などでき、隣接し、自分たちが通う小学校への親しみは十分に持っている。</li> <li>・学びに向かう力を幼児期から育て、学校へとつないでいることを意識し、隙間の時間を使って本園の子どもたちの姿や遊びを通しての学びを小学校へ伝えていくようにしたい。</li> <li>・架け橋プログラムについての研修は深めているが、まだまだ実施には課題がある。</li> <li>・親子で絵本を読む時間が少ないことを危惧している。親子で絵本に親しむことは、心の安心安定を育むだけでなく、想像力や感性を培い、小学校以降の読む・聞く・理解する・書く力につながっていくことなど、機会を設けて伝えていく必要を感じる。子どもが自分で読むだけでなく、お家の人に読んでもらうことに幼児は喜びがあり、心が育つことを繰り返し伝えていきたい。</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を踏まえ、より接続期を意識した5歳児後期の教育課程を編成し、週案の内容を充実していく。</li> <li>・校庭の活用や教職員の交流だけでなく、より安心感をもって子どもたちが就学に向かっていけるように心をつなぐ取組を進めていきたい。</li> <li>・今後も幼稚園の保育の様子を、小学校の先生方や地域の方に参観していただく機会を設け、幼児期の子どもの発達の理解や幼稚園教諭の環境構成や援助についてより理解を深めてもらう。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携のエピソード検討</li> <li>・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討</li> <li>・『親子で絵本』の活用度</li> <li>・小中学校の校長先生による読み聞かせ実施</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「幼稚園は小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</p> <p>② 「親子で絵本を読む時間を大切にしている」</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>小学校と中学校が隣りにあるという立地条件を活かし、感染症が流行する前の状況になっていくとよいと思う。</p>

#### 最終評価

<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

### （３）預かり保育に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育指導計画の作成、実践、見直しをし、預かり保育における遊びの多様性を図る。</li> <li>・園生活が充実し、無理なく過ごせるように、興味ある遊びを実現できる環境づくりや支援をする。</li> <li>・特に早朝預かり保育では、温かい声かけを心がけ、預かり保育が拠り所となるように保護者との連携を深める。</li> <li>・子どもにとって安心できる場となるように、担任や教職員が緊密な連携を取る。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど）</li> <li>・アンケート項目から</li> </ul> <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p>② 「早朝預かり保育（朝にっこり）があることすることで、必要なときに利用できる安心感がある」</p>

#### 中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど）</li> <li>・アンケート項目から</li> </ul> <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」      とてもそう思う 66%・概ねそう思う 28%</p>
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育（早朝を含む）をすることによって、保護者の就労やゆとりの時間への意識が高まり、働きながらも幼稚園に在園できるという子育てのパートナーとしての役割は増えてきている。保育者の家庭的な温かい関わりで、子どもの思いに寄り添い、一人一人が満足したり楽しんだり受け止められるなど、丁寧な関わりが出来てきた。</li> <li>・ゆったりと自分の好きな遊びができる時間なので、保育中には見られなかった集中力や発達の伸びが見られることもある。担任と預かり保育担当者との連携により、保育と預かり保育が連動していくことの大切さを感じる。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい遊具や遊び方、イベント（つくって遊ぼう、サッカー等）を取り入れ、家庭的な雰囲気の中でも変化をつけて、預かり保育が子どもにとって新鮮で楽しい時間になるように工夫する。</li> <li>・担当の教員と担任、保護者が連携を取りながら、子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりをしていく。</li> <li>・預かり保育に参加した家庭への伝達事項が抜けていかないように意識していく。</li> </ul>	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど）</li> <li>・アンケート項目から</li> </ul> <p>① 「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</p> <p>② 「園が早朝預かり保育をすることで、必要なときに利用できる安心感がある」</p>	学校関係者による意見・支援策
学校関係者評価	<p>以前とは違い、早朝保育も始まっている。午後からの預かり保育の中で、運営協議会として読み聞かせなど協力できることは声をかけてもらっている。</p>

## 最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

### (4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就園児ぷちたんぽぽ組（2歳児親子）の回数を増やし、引き続き乳児から幼児への発達に応じた遊びや場を提供し、人への安心感や信頼感を構築する。</li> <li>・保護者同士が子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする</li> <li>・園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する</li> <li>・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。</li> <li>・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。</li> <li>・社会福祉協議会「福ちゃん組」における連携、及び地域子育てステーション事業における連携をする。</li> <li>・地域の幼児教育の場として、幼児期に育てたい力について発信できるようにする</li> </ul>	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子</li> <li>・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流</li> </ul>	

## 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数</li> <li>・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子</li> <li>・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流</li> </ul>	
自己評価	<p>こっこ組 30 組・ぷちたんぽぽ組 19 組 語り合いは、毎月 1 回実施 小規模保育事業と協定書を結んでいる</p>
	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数（登録）は、増えつつある。</li> <li>・今年度は感染に気を付けて、おひさまタイム（子育て語り合い）毎月 1 回行うことができていますので、在園児保護者と話す機会も増え、学年を越えた保護者のつながりが持てるようになった。</li> <li>・未就園児保護者が教育相談を利用しながら、在園児の遊びや生活の様子を垣間見て、幼児の発達を知ったり、教職員の雰囲気を感じ取ったりすることができ、利用している親子にとっては、ホッとできる場になっている。また、ぷちたんぽぽ組は 2 歳児親子の取組であるが、同じ学年の親子が集うので、親子共に知り合いになり、温かい雰囲気になってくる良さがある。</li> <li>・少しずつではあるが、乳児も増えてきて成長を見守ることが楽しみである。また、在園児も愛らしい乳児の姿から、親しみ、自分の成長を感じ、小さい子どもを思いやる気持ちで関わっている。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から 2 歳児親子ぷちたんぽぽ組をつくったことにより、今年度の年少児は就園前からの親同士、子ども同士の関わりができやすかった良さがある。ぷちたんぽぽ組の取組が互いの保護者と</li> </ul>

	<p>触れ合い、つながりを持つ良い機会になったのではないかと考える。来年度に向けて、日数や内容などを検討し、子育て世代が心温まり、子育てが楽しいと思える場にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響もあり、小規模保育事業の子どもたちとのふれ合いは難しかったが、今後も地域の子どもを育てる者同士、思いを寄せていきたい。</li> </ul>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染状況を見ながら、未就園児と在園児がかかわる機会を設け、触れ合う機会を考えたい。幼稚園説明会は4回行ったが、受け身的な場となったので、懇談会などで子育ての悩みや入園に関する質問に応える場をつくるよう努めたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>近隣に新しくできる住宅などについても、小学校隣の公立幼稚園の存在を知らせていけばいいのではないかと。</p>

#### 最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

### (5) 地域とのかかわり (社会に開かれた教育課程) に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「板橋祭」や「親と子の秋の集い」への参加</li> <li>・豆ごはんやカレーパーティーの買い物体験 (年長児)</li> <li>・女性会によるお茶会体験や、地域のお年寄りとの触れ合い交流 (年長児)</li> <li>・幼中連携における中学生との交流 (中3生作成の手作り絵本のやりとり)</li> <li>・学校運営協議会を中心とし、幼児教育への理解、相談、協力を得られるようにしていく。</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や内容</li> <li>・子どもの姿や保護者・地域の方の声</li> <li>・アンケート項目</li> </ul> <p>① 「地域とのかかわりを大切にしている」</p> <p>(後期)「子どもは地域行事 (板橋祭・親と子の秋のつどい等) に喜んで参加している。</p>

#### 中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の回数や内容</li> <li>・子どもの姿や保護者・地域の方の声</li> </ul>
--

<p>・アンケート項目</p> <p>② 「地域とのかかわりを大切にしている」<span style="float: right;">とてもそう思う 67%・概ねそう思う 33%</span></p> <p>（後期）「子どもは地域行事（板橋祭・親と子の秋のつどい等）に喜んで参加している。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <p>・ 豆ごはんやカレーづくりの材料を年長児が地域に出て買い物をする、図書館に出かける、年長児が育てた植物を花の苗屋さんの実施で地域の方が足を運んでもらってくださる、育った植物の生長を伝えてくださる、3歳児が地域の公園に出かけるなど、小さなことをコツコツと積み上げていくことができた。コロナ禍の中、以前のようにとはいかないが、新しい取組を実施している。地域の子どもは地域で育てるという意識が根付いているので、人とつながる大切さを伝え、これからも保育に活かしていきたい。</p> <p>・ 秋・冬に向けて、感染予防対策に留意しながら可能なものは行っていきたい（お茶会・中学生の手作り絵本を頂き、親子でお礼の手紙を書くなど）</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>・ 今年度は、学校運営協議会の方に運動会を参観していただくことができたので、理事会の中で具体的に話を出していただくことができた。これからも、幼稚園の取組や子どもの姿を知って頂く機会を設けたい。</p> <p>・ 預かり保育の時間を利用して、学校運営協議会の方に絵本の読み聞かせや手遊びを行っていただき、直接子どもたちとかかわる機会や保育参観などに来ていただく。</p>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>・ 交流の回数や内容</p> <p>・ 子どもの姿や保護者・地域の方の声</p> <p>・ アンケート項目</p> <p>「地域とのかかわりを大切にしている」</p>
	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>学校運営協議会で協力できることはしていきたい。幼児の成長についても、わが子が大きくなり幼稚園の子はかわいいと感じるが、以前とは変化してきていることもわかる。地域の子どもとして温かく大事に関わっていきたい。</p>
最終評価	
<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p>

## (6) 教職員の働き方改革について

重点目標	○日々の教育活動を見直し、幼稚園における「働き方改革」を進め、より一層の保育の質向上を図る
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週水曜日ノー残業デーとする。</li> <li>・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の１８時以降の電話対応は控える。</li> <li>・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。</li> <li>・早朝預かり保育実施により、時間外勤務が増えることがないように全教職員が意識する。</li> <li>・働き方改革に関する話し合いや研修を行う。</li> <li>・園内ＯＪＴを通じて、若手教員を支援する体制を整える。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</p> <p>② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</p> <p>③ 「若手教員に対する園内研修の実施回数など」</p>

### 中間評価

	<div>各種指標結果</div> <div>① 「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</div> <div>② 「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</div> <div>③ 「若手教員に対する園内研修の実施回数など」</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <div><div>・ コロナ禍の影響もあり、行事内容やもち方の見直しをすることができた。密を避ける保育、消毒作業の負担、健康管理などもあり、緊張感は続くが、校務支援や学校支援員、総合育成支援員の配置などで、教員への精神的な負担は軽減されている。常に教職員同士が声を掛け合い、互いをサポートする体制が出来ている。そのため、園運営がスムーズにいらっていると思われる。</div><div>・ 早朝預かり保育を本格実施するようになったが、昨年の試行実施よりは時間外勤務を控えようとする意識がゆるくなっているため、もう一度教職員に段取り良く業務を進めようとする意識を持てるように声をかけていく。</div><div>・ 水曜日のノー残業デーは、実行できず、課題となっている。</div><div>・ 若手教員の園内研修の実施回数は多くなっているが、全教職員で支えていこうという意識が昨年度よりは高まっている。</div></div>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <div><div>・ 引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。</div><div>・ 朝の職朝の回数を減らす（週 2 回→ 1 回）</div><div>・ 検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。</div><div>・ 担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。しかし、担任としての必要な業務は責任を持っていく。</div></div>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <div><div>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</div><div>「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</div><div>「教職員の年休取得状況」</div></div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <div>多忙な様子ではあるが、幼稚園や小学校の歴史を大切に思い、つないでほしい。</div>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策